

市民向けお散歩コース「船橋お散歩海道」の整備

取材日：平成23年（2011年）2月26日

【団体の活動内容】

ふなばしっふ海遊創生協議会（以下、「協議会」という。）は、船橋固有の海辺であり東京湾に残された貴重な浅瀬である三番瀬と、その恵みによって営まれる船橋漁港を、船橋の歴史文化を象徴する場として捉え、地元関係者と連携しながら、海を活かした船橋漁港付近のまちづくりを行うことを目的に、平成21年1月に設立された団体である。

その主な活動内容は、①地産地消による地域誘導モデルの構築と地域特産品の開発と販売、②船橋産が手に入り、味わうことができる「漁港市」の創出と海の街を体感できる仕掛けづくり、③海浜保全事業の普及及びCSRの促進である。



船橋港

【支援金事業】（支援対象経費総額 786,900円 支援金確定額 393,450円 支援率50%）

今回の支援金事業は、市民や来訪者が船橋の歴史文化に触れつつ楽しく散歩できるようなルートや、港町を感じることでできる拠点、市民・来訪者向けの情報提供等の課題について、地元関係者と連携を図りながら、次の3点の事業を行うとするものである。①市民向けお散歩コース「船橋お散歩海道」の整備、②景観整備・案内パネル等の設置、③船橋漁港・地産地消の市民向け情報提供である。

【期待される効果】

船橋中心街から港までのお散歩コースとしての「お散歩海道」の形成を通して、都市型エコツーリズムによる地域経済振興が図られ、地域が連携した継続的な活動のための経済基盤づくりを行うことが可能となる。また、本事業の推進によって、船橋漁港周辺の地域住民、周辺自治会、漁業関係者、商店会等の地元関係者の連携が強められ、船橋漁港エリアを中心としたシティセールスの展開並びに地域ブランド力や観光資源などの地域基盤への発展へとつながっていくことが、本事業の効果として期待されている。

【ウォークラリーの実施】

協議会はこれまでに「船橋港まつり」にあわせて、2回のウォークラリーを行い、事業の推進に向けた活動を行ってきた。第1回ウォークラリー（21年10月8日実施）は、主に船橋港まつり実行委員会やNPOとの協力を得ながら、船橋駅周辺から船橋漁港までを歩いて楽しむクイズラリーを実施し、大勢の参加者から船橋中心街から港までのお散歩コースの必要性の高い評価を得ている。2回目のウォークラリーは昨年10月9日の港まつりに合わせて行われたが、あいにくの雨のため、前回の参加者の半分にとどまった。しかしながらアンケート調査では、船橋駅から港周辺の地区に対して、水辺を楽しく歩ける魅力的な空間にすることや市民が憩えるようなスペース、楽しめるお店、にぎやかな朝市などに対する市民の期待の高さが窺えている。これらの期待に応えるためには、歩道や水辺空間といった行政側からのハード面の整備と行政・市民団体・漁業者・商店街等の互いの連携による円滑な事業実施がさらに必要不可欠なものになってきている。その観点からも、今後、協議会の担っていかねばなければ役割は大変重要なものになっているといえよう。



船橋港ウォーク当日は快晴に

【取材を通して】

我々が取材した当日の「船橋港ウォーク」は、有機農業運動という市民活動をしているNGOから発展した株式会社の主催の活動で、協議会も他団体同様、活動の連携・強化を図る観点から参加しているものであった。当日、一緒に参加して感じたことは、漁業関係者等と地元住民並びに関係団体との交流体験がしっかりと行われており、これらの活動が地元船橋に対する注目や意識を盛り上げる場として大いに役立っていることがはっきりと意識されたことである。船橋にはこんな素敵な漁港があるということをもっとPRしていくことの必要性を痛感した次第である。

本支援事業の推進には漁業者、商店街、行政、市民団体等の緊密な連携と継続的な活動の取り組みがますます必要となってくるであろう。その一環として、地元自治会との連携や小学校におけるまち体験授業の実施なども行っており、着実にその成果を積み上げてきているとのことで、今後とも更なる連携・協働の強化を進めていくことに期待したい。

関わり先（連絡担当者）

ふなばしっふ海遊創生協議会

事務局 小野寺 淳

TEL：080-4000-6987